

11.通信速度

通信速度の分布は図21のような結果となった（インプレス調査：既接続者のみ対象。「学校・会社」：N=542、「自宅」：N=717。図16で「会社と自宅の両方」の回答者はいずれの対象ともなる）。

「学校・会社」（31%）「自宅」（61%）とも「28.8Kbps」の層が最も多い。これについては高速モデムの価格が下がり、入手しやすくなったことが最大の理由と推測される。「自宅」では「28.8Kbps」か「14.4Kbps」（27%）のモデムによるダイヤルアップIP接続が主流といえそうだ。

一方、「学校・会社」では「28.8Kbps」に続いて「192Kbps以上」（21%）と「64Kbps」（21%）が肩を並べている。図18から判断すればいずれも専用線利用が多いと考えられるが、そうであればこの回線速度の差は何を意味しているのだろうか。

まず考えられるのは図19に示した「とりあえず利用して様子を見る」という企業が、特定の部門だけでインターネットを細々と利用しているケース。もう一つは比較的規模の小さい企業などが、ビジネスチャンスを感じて積極的にインターネットを導入しているケースである。

ただ、この1年間の利用者の伸びや「28.8Kbps」が多いことなどを考え併せると、後者の要素が強いように思われる。組織においてインターネットの導入に積極的か否かは、規模の大小とは関係なさそうである。

12.利用頻度・利用時間

1週間あたりの利用頻度を示したのが図22（CSJ調査。N=2,525）、1週間あたりの平均利用時間を表したものが図23である（インプレス調査：既接続者のみ対象。「学校・会社」：N=599、「自宅」：N=721。図16で「会社と自宅の両方」の回答者はいずれの対象ともなる）。

一見してわかるとおり、利用頻度では5割以上が「毎日」と回答している。一方、平均利用時間は「8時間以上」が「学校・会社」で24%、「自宅」で15%いるものの、「2時間未満」と「2～4時間」を合わせた4時間未満の層が半数以上を占める結果となった（「学校・会社」：50%、「自宅」：60%）。

ということは、利用者の多くが毎日のようにインターネットを使ってはいるが、その利用時間は1回当たりわずか15～30分程度ということなのだろうか？

もっとも調査手法が違い、対象の性質も異なると思われる2つのデータを一緒にして軽々に結論じみたことはいえない。ただ、この2つの図を見比べると、「いつも利用したいが、料金が気にかかって意のままにならない」という利用者のジレンマが伝わってきそうである。

13.利用目的

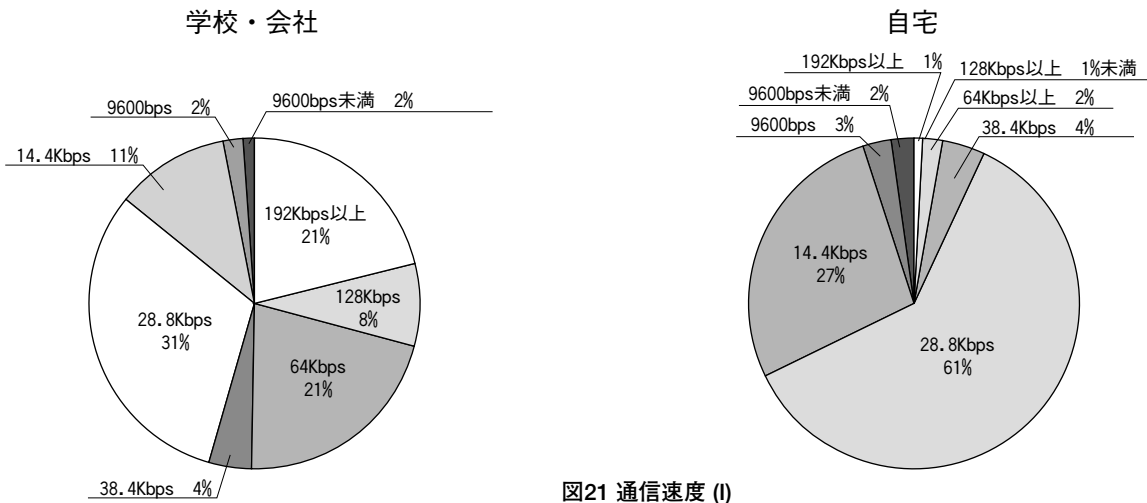


図21 通信速度 (I)

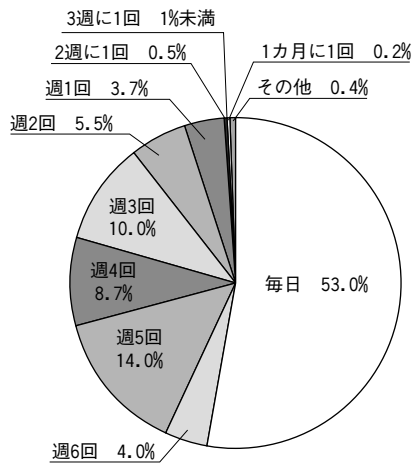


図22 1週間当たりの利用頻度 (C)

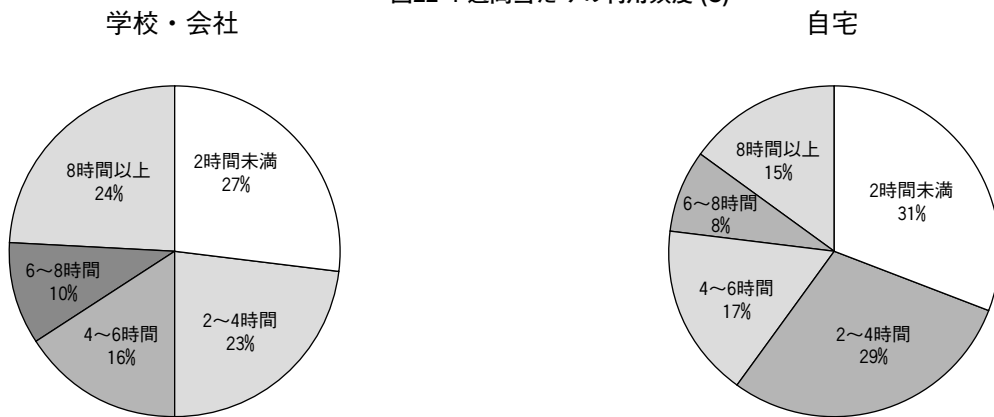


図23 1週間当たりの平均利用時間 (I)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp